

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6月 20日現在

機関番号：36202

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2018

課題番号：25870986

研究課題名（和文）就労支援・職業教育教員の専門性向上eラーニングプログラムの開発

研究課題名（英文）Development of e-learning program to Transition Teachers for successful school-to-work transition of students with disabilities

研究代表者

山口 明日香（Yamaguchi- Fujii, Asuka）

高松大学・発達科学部・准教授

研究者番号：00633257

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、就労支援や職業教育を担う教員の為のeラーニングプログラムを開発した。これは、就労支援や職業教育を担う教員の専門性獲得及び向上をねらいとする教材である。この教材を開発したことで「いつでも、どこでも、必要なこと」を学べる環境の構築を行った。既存の集合型研修では、十分な研修機会を確保できない点を解消することが可能となった。また本プログラムを教員の恒常的な形式知の獲得機会のツールとして位置づけることで、集合型研修を行う際の各教員の学習レディネスの不均衡が軽減できることが期待され、より学習ニーズに合致した集合型研修の設定が可能となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今まで国内で特別支援教育を職業リハビリテーション領域の両領域にまたがる専門性を求められる教員の為のeラーニングプログラムは開発されておらず、生徒の職業自立を支えるための人材育成ツールとしては、国内唯一のプログラムであることは、学術的意義が高いといえる。学校現場においては、生徒への質の高いキャリア形成支援や就労移行支援を支えるための専門性向上が求められていると同時に、教員自身の働き方改革として、日々の業務と教員自身のキャリア形成及び専門性向上が課題となっている。このeラーニングを活用することで、教員へ恒常的な研修機会の提供と効率的な働き方の両立に寄与できることが本研究成果の社会的意義といえる。

研究成果の概要（英文）： This project was focused on the development of the e-learning program for transition teachers for successful school to work transition of students with disabilities in Japan. This e-learning program designed to gain knowledge and skills which related school-to-work transition and vocational rehabilitation to transition teacher. Developed this program enable to easier access to the learning environment for promoting transition teachers' competencies. It is possible to show one of the ways how to solve issues on teachers' competencies matter and working style issue in Japan. Using this program as in-service training of transition teachers, decreasing the gap of learning readiness within teachers and providing sustainable training systems.

研究分野：特別支援教育及び職業リハビリテーション領域における人材育成

キーワード：就労支援 職業教育 進路指導担当教員 専門性向上 eラーニングプログラム 職業リハビリテーション 研修 自己評価チェックツール

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

特別支援学校高等部及び高等学校では、1人ひとりの生徒のキャリア発達を促しながら、福祉、労働等の各関係機関等とのチーム支援のもとに、学校から労働への移行支援を行うことが求めているが、この中心的役割を担っている教員には、特別支援教育の専門性だけでなく、障害者の職業リハビリテーションに関する基礎的な知識やスキルを活用することが求められている。それに関わらず、その専門性を獲得させ向上させる機会が十分に提供されていないという現状があった。職業教育や進路指導、就労支援を担当している教員を支える教育的支援環境や制度環境が十分に整備されていないことは、生徒の職業自立を目指す上で致命的な問題であり、早急に解決の糸口を見出す必要があった。こうした状況を解決する方策としては、計画的な人材育成システムの構築とその人材の専門性の獲得を保障する学習環境の確保という課題が考えられた。また日々の業務が多忙な中で、学習や人材育成が無理なく実施できる環境構成が有効であると考えられた。

2. 研究の目的

本研究では、職業教育、就労支援及び進路指導に関わる教員の専門性獲得及び向上をねらいとするeラーニングプログラムの開発及びこの学習進捗管理を行う上で必要になる教員の専門性自己評価チェックツールの開発を目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、「根拠に基づく人材育成」である教員の専門性向上eラーニングプログラムを開発するために、(a)国内の就労支援・職業教育教員の業務・役割に用いる知識スキルの精査、(b)米国の就労支援・職業教員育成プログラムで示されている知識・スキル内容及びそれらの評価項目及び評価基準の検討、(c)(a)で精査された知識・スキルの選定及び評価項目の精選、(d)(b)(c)よりプログラムを構成する知識・スキル及び評価基準の選定、(e)Web学習システムの作成、(f)eラーニングプログラム試行及び修正、(g)開発プログラムの学習効果の検証を実施した。

4. 研究成果

(1) 自己評価チェックツール開発

自己評価チェックツールを作成するにあたり、進路教員の業務や役割から関連する知識・スキルの項目を選定した。これらの項目の選定では、米国 NASET(National Association of Special Education Teachers) の就労移行支援に従事する教員のコンピテンシーチェックリスト、米国 CEC(Council for Exceptional Children) の DCDT (Division on Career Development and Transition) が提供する知識・スキルのチェックリスト及び、国内の進路教員の業務・役割、知識・スキルに関する先行研究、特別支援学校高等部で用いられている教員用の進路の手引を参考に項目を選定した。最終的に自己評価チェックツールとして選定された項目は、「進路指導(47項目)」、「現場実習(47項目)」、「移行支援(19項目)」、「関係機関・制度(39項目)」の計152項目であり、それぞれ4領域に分けられた知識・スキル獲得の判断基準として、「知っている」「できる」を設定し、チェックした項目がレーダーチャートで示され、既得スキルの領域が可視化できるようにした。このチェックシートでは、Microsoft Office の Excel ベースとして作成し、一般的な教員が頻繁に使用しやすいように開発した。

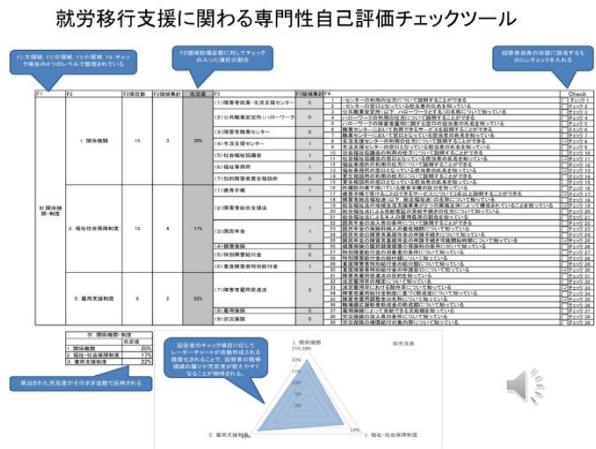


図1 自己評価チェックツール

「知っている」「できる」を設定し、チェックした項目がレーダーチャートで示され、既得スキルの領域が可視化できるようにした。このチェックシートでは、Microsoft Office の Excel ベースとして作成し、一般的な教員が頻繁に使用しやすいように開発した。

(2) 職業教育及び就労支援を担う教員の為のeラーニングプログラムの開発

本プログラムは、職業教育及び就労支援を担う教員の専門性獲得及び向上の為の教材として、9つの領域からなる62の講座によって構成した。9つの領域は、「特別支援教育の基本枠組みとキャリア教育」、「職業自立を支える支援の枠組みと施策動向」、「支援を要する生徒の職業自立の課題と動向」、「職業リハビリテーションの理念と枠組み」、「職業リハビリテーションの関係機関の役割」、「職業リハビリテーションにおけるアセスメントと支援の技術」、「課題分析演習」、「保護者との連携と立ち直りの哲学」、「人材育成を取り巻く諸課題」である。

62講座は、それぞれの7つのコースが編成されている。総合編コースでは、62すべての講座が受講できる。その他に、職業教育・就労支援を初めて学ぶ



図2 eラーニングプログラムのトップ画面

先生向けの 導入編コース，職業教育・就労支援を学び始めた先生向けの 初級編コース，実践に活かせるスキルや知識を学びたい先生向けの 実践編コース，これから進路指導を担う先生向けの 人材育成編コース，学内や学外との連携の課題解決について学びたい先生向けの 連携課題解決編コース，職業リハビリテーションの施策動向や機関について知りたい先生向けの 職業リハビリテーション編コースが設定されている。このeラーニングプログラムでは，株式会社 Mogic の管理するオンライン学習プラットフォーム Learn0 を使用している。このLearn0 では，受講者の学習の進捗管理及びテスト結果，アンケート調査，資料配布を包括できることから採用している。このプログラムの中には，自己評価チェックツールも掲載し，ダウンロードファイルとして受講者には，いつでも活用できるようにしている。本プログラム内容を全て受講することの効果として，「キャリア教育の意義と実践への気づき」，「自立を促す課題の作成とアプローチの理解」，「職業リハビリテーションの連続性への気づき」，「リハビリテーションの哲学的理解」があることが確認された。

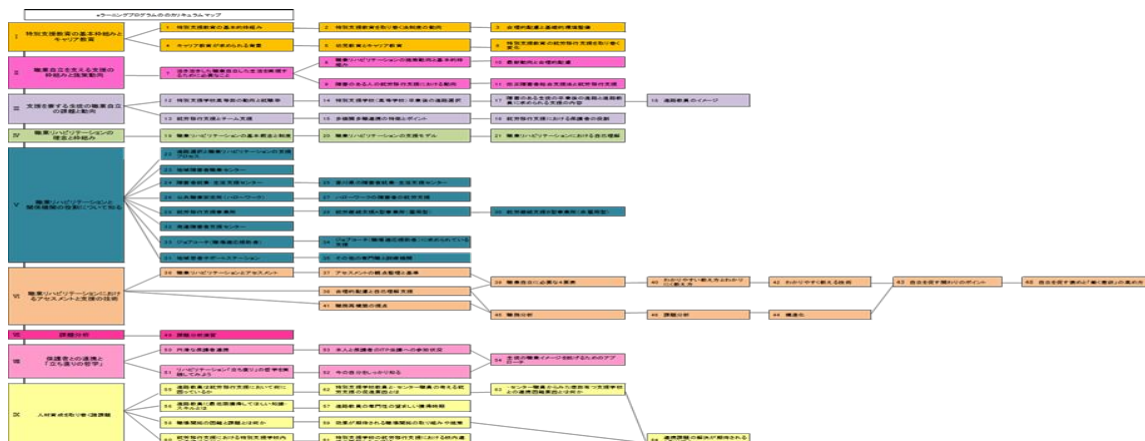


図3 eラーニングプログラムのカリキュラムマップ

### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 8 件)

藤井明日香・川合紀宗・落合俊郎、特別支援学校(知的障害)高等部進路指導担当教員の専門性向上に関する望ましい研修内容及び研修形態 - 受講者の研修課題及び改善点に関する自由記述の分析から - , 広島大学教育学研究科特別支援教育実践センター紀要、査読無、11、2013、101-110.

藤井明日香・川合紀宗、就労移行支援を担う教員の専門性向上のための研修内容の体系化に関する研究-特別支援学校教員の職務内容と研修内容の関連に関する分析から-、アジア職業リハビリテーション研究、査読有、3、2013、2-15.

藤井明日香・川合紀宗・八重田淳・落合俊郎、特別支援学校の就労移行支援における校内連携の課題-進路指導担当教員との連携に関する自由記述の分析から-、広島大学教育学研究科附属特別支援教育実践センター、査読無、12、2013、39-48.

藤井明日香、特別支援学校高等部進路指導担当教員の職務指名の在り方に関する研究 -職務指名の現状と課題の分析から-、アジア職業リハビリテーション研究、査読有、4(1)、2015、17-32.

藤井明日香・八重田淳、障害のある生徒の就労支援における促進要因-特別支援学校教員と障害者就業・生活支援センター職員の相違-、日本リハビリテーション連携科学、査読有、16、2015、41-51.

藤井明日香・川合紀宗・落合俊郎、特別支援学校高等部進路指導担当教員の望ましい知識・スキルの獲得と活用度及び満足度の関連性に関する研究、広島大学教育学研究科附属特別支援教育実践センター、査読無、15、2017、23-31.

藤井明日香・八重田淳、職業リハビリテーション従事者の専門性、高松大学研究紀要、67、査読無、2017、1-8.

藤井明日香・笠井新一郎、特別支援学校高等部の職業自立を目的とする教育課程類型化の現状と今後の課題、高松大学研究紀要、68、査読無、1-13.

[学会発表](計 19 件)

藤井明日香、就労移行支援において進路指導教員に求められている態度に関する研究日本職業リハビリテーション学会第 32 回大会論文集 102-103、2014、岩手.

藤井明日香・川合紀宗・落合俊郎、知的障害特別支援学校の就労移行支援における教員の困り感 法制度及び支援システムに関する課題を中心に、日本発達障害学会第 49 回大会論文集 86、2014、宮城.

藤井明日香・川合紀宗・落合俊郎、特別支援学校(知的障害)の就労移行支援における困り感 効果的な指導法開発及び教員支援に関する課題を中心に、日本特殊教育学会第 52 回大会論文集、2014、高知.

Asuka Fujii, Factors interfering with collaboration for successful transition in Japan, Division on Career Development and Transition 18th International Conference 2014、

Ohio,USA .

藤井明日香・落合俊郎、進路指導担当教員の望ましい知識・スキルの獲得とスキル活用度の関連に関する研究、日本発達障害学会第 50 回大会、2015、東京 .

藤井明日香、特別支援学校の就労移行支援における職場開拓事業の現状と課題に関する調査研究、日本職業リハビリテーション学会第 33 回大会論文集 104-105、2015、東京 .

藤井明日香、進路指導担当教員の望ましい知識・スキルの獲得と満足度との関連に関する研究、日本特殊教育学会第 53 回大会、2015、宮城 .

藤井明日香、特別支援学校高等部進路指導担当教員の中心業務に影響する要因に関する研究、日本職業リハビリテーション学会第 34 回大会、2016、京都 .

藤井明日香・落合俊郎、特別支援学校高等部進路指導担当教員に求められる知識・スキルの望ましい獲得時期に関する研究、日本発達障害学会第 51 回大会、2016、京都 .

⑩藤井明日香・八重田淳、障害者就業・生活支援センターと特別支援学校との連携課題に関する研究 - センター職員の自由記述の質的分析から -、日本リハビリテーション連携科学学会第 18 回大会、2017、東京 .

藤井明日香、特別支援学校進路指導担当教員の研修ニーズに関する調査-研修形態と費用負担の影響を中心に-、日本発達障害学会第 52 回大会、2017、群馬 .

藤井明日香、特別支援学校進路指導担当教員のスキル獲得が専門性満足度へ与える影響、日本職業リハビリテーション学会第 35 回大会、2017、栃木 .

藤井明日香・川合紀宗・落合俊郎、特別支援学校進路指導担当教員の研修ニーズに関する調査-研修内容の関心度と研修条件の影響の検討から-、日本特殊教育学会第 55 回大会、2017、愛知 .

藤井明日香、特別支援学校進路指導担当教員のスキル獲得が活用度へ及ぼす影響に関する研究、職業リハビリテーション研究会第 25 回大会、2017、東京 .

藤井明日香・八重田淳、特別支援学校進路指導担当教員の就労移行支援における自己評価チェックツールの開発に関する研究：試案の作成とチェックツール活用の観点整理、日本リハビリテーション連携科学学会第 19 回大会、2018、神奈川 .

藤井明日香、特別支援学校進路指導担当教員の職務遂行上与えられている裁量及び権限の範囲に関する調査 - 専任進路教員数の違いによる分析を中心に -、日本発達障害学会第 53 回大会、2018、広島 .

Asuka Fujii・Kawai Norimune、Development of the In-service Training Program on Transition for New Secondary Special Education Teachers in Japan、Division on Career Development and Transition 22th International Conference 2018、2018、Iowa ,USA .

山口(藤井)明日香、進路に関わらない教員への職業リハビリテーション基礎研修実施による教育効果に関する研究-自由記述の質的分析から-、キャリア発達支援研究会第 6 回大会、2018、神奈川 .

Asuka Fujii Yamaguchi・Yaeda Jun、Development of e-learning program to Transition Teachers for successful school-to-work transition for students with disabilities: Focus on curriculum development 35th Annual Pacific Rim International Conference on Disability and Diversity、2019、Hawaii,USA .

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

<http://afujiiilab-transition.p-kit.com/>

## 6. 研究組織

(1) 研究分担者 該当なし

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者 該当なし

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。